

課題情報シート

課題名：	木造住宅の解体工事に関する施工管理法の提案 ー木質資源のリユースに関する取り組みー		
施設名：	東北職業能力開発大学校		
課程名：	応用課程	訓練科名：	建築施工システム技術科
課題の区分：	開発課題	課題の形態：	製作

課題の制作・開発目的

(1) 課題実習の前提となる科目または知識、技能・技術

安全衛生、応用構造力学、建築生産管理、施工実験、木質施工・施工管理実習、施工管理

(2) 課題に取り組む推奨段階

木質構造施工・施工管理課題実習終了後

(3) 課題によって養成する知識、技能・技術

課題を通して、主に企画、施工計画、施工・施工管理、評価、省力化、合理化といった技術の実践力を身に付けます。

(4) 課題実習の時間と人数

人数：40名（2年生：13名、1年生：施工者27名）

時間：216時間

これからの日本の建築生産技術は、環境に配慮し、合理的に再生する事を求められています。

本課題実習では、建物を解体時に粉砕し埋め立てる現在の解体方式から、建物を丁寧に解体し、可能な限り部材をリユースしていくことができるようにする方式を提案するため、木造施工・施工管理実習で建築した建物を対象に解体工事を管理・施工しました。構法のおよび工事者的側面（人工数）から整理・考察し、解体工事の工事管理・管理報告作成を目的としました。

課題の成果概要

開発課題から、リユース部材の取得には、詳細な解体工事計画と取得部材の事前選定を行うことが重要であることを習得できました。社会的な問題から必要とされる課題を設定し、事前調査、施工計画、施工・施工管理、評価の流れから、省力化、合理化などの試行を繰り返しながら実施しました。また実施段階では、1年生を専門工事業の技能者とし、2年生が管理者として、それぞれの立場で必要な品質管理等を実践していきました（図1）。

養成する能力 (知識、技能・技術)	課題制作・開発のポイント	訓練（指導）ポイント
○リーダーシップ力、調整力、安全衛生管理	◇解体の作業手順を決定させます。 ◇安全衛生管理を徹底させます。	●直面している課題の取り組み状況を把握し、問題点や解決方法について個別に話し合う機会を持ちます。 ・安全衛生に留意させます。 ・解体の機器の適正な使用方法を指導します。
○分析力、実践力	◇解体工事管理の評価を数量的に明らかにします。 部材リユース率を明確にしておきます。	●廃棄物処理を適性にさせるための事前学習を行います。
○プレゼンテーション力	◇報告書の内容を効果的に時間内に発表できるようにします。 プレゼン用ツールの有効な活用ができるようにします。	●客観的な表現・評価の書類の作成方法を指導します。 ●グループ会議や勉強会の機会を増やします。

<指導員に対する所見>

2年生が1年生を指導することから、上級生は緊張感および責任感をもって実習に取り組んでいます。指導員は、2年生が計画する作業工程等を適正に評価し、個々の学生が種々の役割を体験できるように指導していく必要があります。

課題に関する問い合わせ先

施設名 : 東北職業能力開発大学校
住所 : 〒987-2223
宮城県栗原市築館字萩沢土橋 26
電話番号 : 0228-22-2082
施設 Web アドレス : <http://www.ehdo.go.jp/miyagi/ptcollege/index.html>